

会員より ～ グリーンインフラに関する会員の取組を紹介します！ ～

■ リニア長野県駅（仮称） 駅前広場の土木実施設計の成果を発表!!

牧島 光宏（長野県飯田市役所リニア推進部リニア整備課 課長）

リニア長野県駅（仮称）の駅前広場については、『飯田・リニア駅前空間デザインノート』をベースに、これまで様々な検討を進めてきています。今年度に入り、これらの検討内容の報告会や、意見交換会を開催し、いただいたご意見を踏まえて土木にかかる実施設計としてまとめた成果を発表しました。

● 駅前広場の整備にはグリーンインフラの考え方を反映



- 雨水の集水や浸透できる面積を広くとることで、流出調整機能を持たせると同時に、緑化を通じて地表面の温度を下げる効果も期待できます。
- 駐車場に緑化舗装を取り入れ、植栽された広場を多く確保することで、長野県の南の玄関口らしい駅とします。また、雨水を浸透させる施設も設置します。



※ コミュニティ広場は平常時は人々が集まる賑わいのある空間として、豪雨時等では雨水の調整池として機能します。

設計コンセプト

- 機能的でコンパクトな駅前空間
- 信州・伊那谷らしさを感じられる駅前空間
- 自然との調和を目指した駅前空間
- 地域と一体化した駅前空間

★ 今後は、リニア駅前広場のにぎわいを創出するために、どのような機能が必要で、それをまちづくりにどう活かしていくのか、駅前空間の施設のあり方など、事業者の方をはじめ多くの皆さんにご参画いただきながら議論し、実現していく予定です。

詳細はこちらから ▶▶▶ 「飯田市HP」 (<https://www.city.iida.lg.jp/site/iida-linear/topics.html>)

■ 公共事業は生物多様性を増やす時代へ

— 英国で進む生物多様性ネットゲイン政策について —

中村 圭吾（公財）リバーフロント研究所

英国のイングランドにおいて生物多様性ネットゲイン政策が推し進められています。開発事業において、生物多様性を10%純増させることが新たな環境法（2021年11月）により明文化されました。

● 生物多様性ネットゲインとは何か



現場（オンサイト） 別の場所（オフサイト） 生物多様性クレジット

BNG+10%を実現する方法は3種類

- 生物多様性ネットゲインとは、開発事業において、生物多様性を保全するだけでなく、純増（ネットゲイン）しようとする野心的なものです。新しい環境法では民間・公共にかかわらず開発事業では、そのエリアの生物多様性を少なくとも10%増加させることが必須条件となりました。その場所で増加できない場合は、別の場所（オフサイト）で、あるいは生物多様性クレジットを購入することにより+10%の純増を実現します。

● 生息場を用いて定量評価する生物多様性メトリック

生物多様性ユニット = 生息場 × 質

開発後ユニット - 開発前ユニット = 純増分
115 - 100 = 15%増!

生物多様性ユニットが10%以上増であればOK

- 生物多様性メトリックと呼ばれる定量評価手法は、生息場とその質から計算される生物多様性ユニットという数値を用いて評価します。開発後の予測ユニットが開発前のユニットよりも10%以上増であればOKとなります。開発前の評価では、質として希少性やエコネットなどの戦略的意義が評価され、開発後の予測評価では、さらに保全の困難さ、必要時間、保全される場所との距離的なリスクなども加味されます。

中村圭吾（2022）イングランドにおける生物多様性ネットゲイン（BNG）政策とその影響について (<https://www.rfc.or.jp/rp/files/33-13.pdf>)

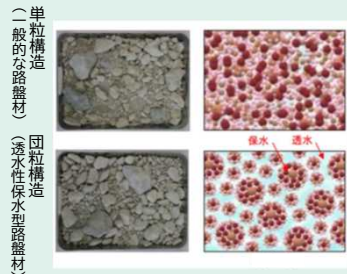
国土交通省より

■「グリーンインフラ創出促進事業」公募の選定結果について

○ 民間企業が有する新たなグリーンインフラ技術の実証を行う「グリーンインフラ創出促進事業」の公募を行い、審査の結果、4事業を選定しました。今後、当該技術等を用いて実証フィールドでの検証を行い、その実用可能性などをとりまとめる予定です。

■透水性保水型路盤を用いた「アーバン・グリーンドラム」プロジェクト

実施者（代表者）：全国トース技術研究組合



単粒構造と団粒構造の比較(イメージ)

現在、多くの歩道で採用されている透水性舗装については、時間の経過とともに透水性の低下が懸念されるなどの問題が生じている。このため、透水性・保水性能等の継続的な確保を目指して、路盤材を団粒構造に改良する技術の効果を検証する。

■仮設式レインガーデンによるグリーンインフラの多面的機能の検証

実施者（代表者）：東邦レオ株式会社



仮設式レインガーデンの構造概要と設置例

グリーンインフラを初めて導入する際の合意形成等のプロセスにおいて、定量化データ等を収集するための簡易な整備手法が求められている。このため、仮設式のレインガーデンの設置やアプリケーションの活用などにより地域主体の参画を促す仕組みを実証する。

■大型商業施設における雨庭・バイオスウェルの雨水流出抑制効果のモニタリング

実施者（代表者）：東急建設株式会社



グランベリーパークに整備された雨庭 (写真提供:東急株式会社)

雨水流出抑制効果を期待して設置された雨庭（レインガーデン）等について、運用開始後の性能を評価した事例は殆どなく、社会的な価値が明らかにされていない。このため、面的なモニタリングを実施し、商業施設「グランベリーパーク」をはじめとする多くの開発主体の参考となる雨水流出抑制の効果を検証する。

■仮設式レインガーデンによるグリーンインフラの多面的機能の検証

実施者（代表者）：清水建設株式会社



実証フィールドとなる休耕地

気候変動に伴う水害リスクが増加する中、人口減少、少子高齢化を背景に、全国各地で閑地や遊休農地等の低未利用地も増加している。このため、「水のアクティブ制御」により低未利用地を活かした低コストで土地を有効活用する技術を実証する。

詳細はこちらから ▶▶▶「「グリーンインフラ創出促進事業」公募の選定結果について (https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000287.html)

TOPICS

令和4年度第1回グリーンインフラ懇談会を開催しました



○ 令和5年3月17日、来年度夏頃のグリーンインフラ推進戦略の改定を目指し、今後のグリーンインフラ推進戦略の方向性について議論を行うため、グリーンインフラ懇談会を開催いたしました。



○ 議事概要、当日資料などの懇談会情報については、後日、国土交通省HPの「グリーンインフラポータルサイト」ページ内に掲載予定です。

詳細はこちら ▶▶▶「国土交通省HP グリーンインフラポータルサイト」 (https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000015.html)

人物紹介

※グリーンインフラに携わる方々を毎月紹介します



はやし えいゆう
林 英雄 [出身:広島県]

日刊工業新聞社

総合事業局次長 兼 イベント事業部長

前職では緑化やランドスケープに関わる専門紙で働いており、今回グリーンインフラ産業展の事務局として、皆様と一緒に携われることを嬉しく思います！
第2回の開催に向けて宜しく願いいたします。

■ 会員情報 1,687人・団体 (2023年2月28日時点)

● 新たな一号会員

- ・愛知県 春日井市
- ・東京都 渋谷区

● 新たな二号会員

- ・国土交通省 九州地方整備局 河川環境課
- ・国土交通省 都市局 街路交通施設課
- ・国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課
- ・国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課

● 新たな三号会員 (民間企業、学術団体等)

- ・東亜建設工業株式会社
- ・合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会
- ・株式会社ガーデン二賀地
- ・株式会社キタコン
- ・アジアエンジニアリング株式会社
- ・公益財団法人日本環境協会
- ・日本特殊陶業株式会社
- ・一般財団法人ながの緑育協会
- ・株式会社文化資本創研
- ・新門司開発株式会社
- ・株式会社アルメックV P I

- ・ネイチャーデザイン株式会社
- ・トークンエクスプレス株式会社
- ・株式会社NEDS
- ・株式会社Eプランリテール
- ・Greenery Japan 株式会社
- ・株式会社白崎コーポレーション
- ・株式会社おおいたCELEENA
- ・古川電気工業株式会社
- ・アゴラ造園株式会社
- ・Green Neighbors合同会社
- ・佐久間特殊鋼株式会社
- ・日本鋳鉄管株式会社